



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第1959号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市梅名393-1 ブケ東海三島
TEL(055)984-0120
会長 野田 和秀 幹事 平出 利之



広重版画より 三島 朝霧

第2022回例会

2014.4.17晴
於:米山記念館

司 会

栗原達治君

ロータリーソング

「それこそロータリー」
指揮 三田明宏君

会長挨拶

会長 野田和秀君

皆様、こんにちは。本日のゲストは、米山奨学生のファン・ウェイタ君、そしてビジター且つファン・ウェイタ君のカウンセラーとして、三島RCの小沼様、ようこそ当クラブの例会にお越しくださいませ、ありがとうございます。心より歓迎申し上げます。ファン・ウェイタ君の紹介は、後程ロータリー財団・米山委員会の柴崎副委員長よりあります。またウェイタ君には卓話をして頂きます。また卓話のあと質疑応答もあるそうですので、会長挨拶は短くして、質疑に充てたいと思います。よろしくお願い致します。

さて、当米山記念館での例会は、今回が3回目、今年度としては最後の例会となります。今年度は、例会場の変更に伴い、例会費の削減のため当会場での例会を3回に増やしましたが、会員皆様のご感想は如何でしょうか？ 第2分区内にこんな素晴らしい会館がありますので、季節を変えながら可能な限り利用した方がよいのではと、私は思うのですが。いよいよ次週例会前に、新旧理事・役員・委員長会議が開催されます。現役員・委員長の皆様、次年度への申し送り事項の準備等をお願い致します、と共に例会場に関するご意見もございましたら会長・幹事あるいは、SAA委員長の方へお寄せ下さいませようお願い致します。

また、前回の例会の際に、不明と申し上げました「ロータリーの友」電子版へのアクセスのためのIDとパスワードが判明しましたのでお伝えします。口頭のみでの報告となりますが、試してみてください。なお必要であれば事務局の宇都宮さんにお問い合わせ下さいませように、以上簡単ですが、会長挨拶と致します。

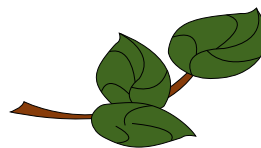
“こんにちは、ようこそ”

ゲスト ファン・ウェイタさん(米山奨学生)
ビジター 小沼孝次君(三島RC)

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修正出席率
前々回	41/47	87.23%	44/47	93.62%
今回	32/45	71.11%	会員総数	53名

欠席者 石井(彰)君、石井(良)君、石川君、大畑君、佐野君、鈴木(正)君、諏訪部(照)君、千葉君、原君、村山君、矢岸君、矢野君、米山君



幹事報告

幹事 平出利之君

- ①中央町にある4クラブ合同事務所の家賃の件ですが、消費税が上がった分値上げの通知がきました。
- ②5月の第1例会は、特別休会です。お間違いのない様お願いします。

2013～2014年度
国際ロータリー会長
ロン D.バートン

ロータリーを实践し、みんなに豊かな人生を

東日本大震災について

米山奨学生 ファン・ウェイ・タさん

皆さん、こんにちは、マレーシアから参りましたファンウェイタと申します。今日は初めて卓話なので、何を話すかすごく悩んだ上に、やはり3年1か月前の東日本大震災についてお話したいと思います。



その前になぜ日本へ留学に来たかについてお話します。

小さい頃から、日本のドラえもんやドラゴンボール、そして木村拓也のドラマを通じて、日本に憧れ、いつかその夢の美しい日本に行けたらいいなと思いました。そして、高校3年生の時、日本で留学していた兄の卒業式のため、初めてマレーシアから出て、初めての海外、しかも憧れていた日本に観光しに来ました。さすが先進国って感じ、思いやりやマナー、何から何までの礼儀正しさなど多くのカルチャーショックを受けました。たった10日間くらいの日本の旅でしたが思いやりやマナーなど重視されていて、そして礼儀正しい日本に惚れました。

そして、さかのぼりますが、3年1か月前の2011年3月11日、この美しい日本が大震災に遭いました。地震が起きた時、正直あの時、私は怖いという気持ちは全然ありませんでした。ただ皆さんが慌てている姿をずっと見ていました。私は、どうして皆さんがそんなに慌てているのか、ここは日本ではないか、地震はしょっちゅう発生するでしょう、と心の中でそう思いました。日本だからこそどんなに大きな地震が起きても、その万全な対策などで絶対に大丈夫だと思いました。その時は今回がどれほどの大きさなのか、全然わかりませんでした。その後、テレビや新聞などで状況を知り、とてもショックを受けました。まさかこの地震によって、こんな凄まじい津波で多くの人々、建物、発電所まで大きな影響を受けてしまうのかと、驚きました。それでも、その時の私は日本だからこそ、きっと大丈夫だと信じていました。

そして、4月に向けて、大学の新学期を始め、もっとも話題になったのはこの震災の話です。しかし、よく気付いたら、その震災の話はたったの5分から10分で終わりました。思ったより皆さんはそこまで関心を持っていませんでした。一年生から参加していた部活で飲み会をやった時、飲み放題の宴会コースを頼んで結局飲むだけになって、食べ物はたくさん残ってしまいました。自分はその時、よく新聞やニュースで東北の地震で今避難している人たちにも食料不足の関係で困っているのに、どうして今自分たちがこんな楽しく飲んだり、食べ物を粗末できるのかを、自分なりにすごく考えました。その時は地震が起きてから一か月過ぎた頃でした。

そして私は、よく考えた上で、休学することに決めました。そして、震災の情報をよく知るために、インターネットや新聞などを通じて情報を収集し、バイト先は5月いっぱいまで辞めて、6月の初めから宮城の石巻市に出発しました。

まず最初に着いた石巻専修大学でテント寝泊りをしてきました。最初は現地の被害者はまだ食料不足などの問題で困っています

ので、私たちボランティアは自分の一週間の食料をレトルト品などのすぐ食べられるものばかりでした。それで、一週間以上延長する人はその一週間後に帰る人が残った食品を食べていました。毎日自炊をしました。最初に任された仕事は、全国からの支援物資をショッピングモールのように分かりやすく各コーナーを分別し、たくさんの現地のNGO団体が取りに来る時すぐ必要の物資を渡せるようにする仕事でした。次に木の屋という缶詰の活動の紹介をしたいと思います。この活動は津波で流された80万個の缶詰を泥の中から掘り出し、それで専門の人がまた使えるかどうかの区別をしてくれます。要するにひたすら缶詰を拾う作業でした。

よく新聞で出ていたあの有名な大川小学校ですが、なぜ注目されたかということ、学校の判断ミスで助けられるはずだった命がたくさん犠牲になってしまったということです。話によると、実は学校から裏の山まで、約5分で着く避難道がありますが、生徒たちは先に、校庭に避難することになり、それから山まで避難していく途中で津波が来て、多くの子供が流されてしまいました。結局108人のうち、84名の方がなくなりました。時間のかかる判断で、助けられる命は助けられなく、それは何よりも悲しいことです。私は12月にその近くで活動してる時に聞いた話では、助けられた子供のお母さんとその子供もずっとつらい気持ちだったそうです。なぜかということ、自分の子供だけが助けられて、ほかのお母さんにどういふ顔で会えばいいのか分からなかったし、その助かった子供も多くの友達を亡くしたことに悲しみ、引きこもってしまったそうです。よく考えると、本当につらいことです。なくなれた人も悲しいけど、残った人もその事実を受けとめるのはつらいことです。また、避難しているうちに、そういう事実を受け止められなくて、自殺してしまう人も実際にいたと聞くとなんか悲しいです。聞いた話では、ある子供のお母さんが行方不明になった娘を探すために、何回も自分の娘を探すように自衛隊を頼んで、自分も毎日のように学校に通い、手紙を書いてその学校に張っていました。私はここで多くの手紙を読んで、初めて被災地で涙を流しました。そして、そこから20分くらいの距離のところで作業をしていたうちに、あるボランティアメンバーが一人の死体を発見しました。私も近かったので見に行きましたが、その方は海面に浮かんでいて、膨らんでいる体以外、分かりませんでした。その後すぐヘリコプターと警察が来て、そのあとの様子は見えませんでした。話によると、もう6か月間海の中に沈んでいて、完璧な体に残すことはほぼ不可能と聞きました。

次に私が入った団体の仮設住宅に対する支援活動を紹介します。この活動は、阪神大震災の経験を参考に、仮設住宅に引越してきた被災者たちの自殺と孤独死を防ぐため、毎週「きずな新聞」という新聞を作り、それを使って石巻にある仮設住宅に一軒一軒を訪ねながら、住民たちとコミュニケーションを取るものです。その他に皆さんとベンチを作ったり花壇を作って、花を植えたりする活動を行いました。作った花壇など、仮設住宅の周りに置きます。

これらの活動から、多くの事を学びました。初めて「絆」という言葉を学んで、そしてこのことばの意味はよく分かってきました。この震災で自分が東北で築いた多くの絆を大切にしていきたいと思います。そして、東北の復興を期待します。戦後の日本が高速の復興および発展、その素晴らしさをきっと東北の皆さんが再現できると私は信じています。皆さんも国内観光するなら、ぜひ一回東北を訪ねてください。

(週報担当:川名正洋)